

■ 第 2 回懇談会でのご意見について

◇ 第 2 回 多摩ニュータウンまちづくり方針の策定に係る懇談会（H29. 10. 13 開催）における、各参加者からのご意見とその対応・考え方を以下のとおりまとめた。

● まちづくり方針（素案）たたき台について

➤ 計画区域について

✓ 【首都大学 饗庭教授】多摩ニュータウン八王子市域だけでなく、南陽台等、周辺も含めた方が考えやすいのではないかと。

✓ 【東京都 宮城部長】多摩ニュータウン八王子市域だけではなくもう少し広範囲を対象区域としたほうがよいのではないかと。

⇒ 【対応】多摩ニュータウン事業により整備された地域におけるまちづくり方針を策定するものと考えている。対象区域は多摩ニュータウン八王子市域となるが、周辺地域とのつながりは重要なことで、方針の中でも検討が必要と考えている。

✓ 【首都大学 饗庭教授】新住区域に注力した方針となっているように感じるが、区画整理区域も入れるべきではないかと。

⇒ 【対応】高齢者の増加や空き家の問題等は、共通する部分。また、学生が多く居住する等、区画整理区域特有の特徴もあり、学生の定住化や学生との連携等は、主に区画整理区域での取り組みになると思う。

➤ 多摩ニュータウンの概況について

✓ 【首都大学 饗庭教授】課題が見えないままに漠然と議論している可能性がある。課題が共有できるよう、課題図等作成してはどうか。

⇒ 【対応】課題をまとめた図を作成。

《⇒方針（素案） P21 「課題の整理」 追記》

➤ 南多摩尾根幹線沿道の土地利用について

✓ 【首都大学 饗庭教授】南多摩尾根幹線沿道の土地利用についても検討しておく必要があるのではないかと。土地の契約状況や大規模な土地を持つオーナーの意向等ある程度把握しておかなければ、突然土地が空く可能性もある。

⇒ 【対応】できる範囲で把握するよう努める。

✓ 【中央大学 和田教授】八王子市のできる施策で書くしかないと思うが、多摩ニュータウン以外の八王子市内から移動させるということは施策として考えられるのではないかと。

⇒ 【対応】個別施策の段階で、市内外に多摩ニュータウンの魅力を発信して、交流人口の増加を促進したいと考えている。

[関連：方針（素案） P31 方針⑧、方針⑬]

➤ 将来の展望について

- ✓ 【中央大学 和田教授】生産年齢人口率、子ども率等は、人口統計分野ではあまり使わない。

⇒ 【対応】生産年齢人口割合、年少人口割合に修正する。

《⇒方針（素案） P18 グラフ語句修正》

- ✓ 【首都大学 饗庭教授】広域交通イメージ図について、明らかなイメージの部分を除いて、各道路の位置正確に描くべき。

⇒ 【対応】修正する。

《⇒方針（素案） P19 広域アクセスイメージ修正》

➤ まちづくりの方針について

- ✓ 【中央大学 和田教授】現状の方針では全世代に対応したものとなっており、エネルギーが分散している。住み続けている人を支える守りの戦略か外から若い人に入ってもらい守りの戦略かなど、方針を定めて選択と集中をすべき。

⇒ 【対応】市として必要な施策を行なうためにも、各分野に関する方針は記載する。

個別施策の段階で、ブランディングやプロモーション等を行なう際には、どのような戦略か、検討したい。

関連：方針（素案） P31 方針④

- ✓ 【中央大学 和田教授】子育て世帯に住んでもらえるよう注力してもよいが、アクティブシニアや 40 代、50 代の消費行動等を利用する方に注力するののもひとつの戦略である。

- ✓ 【首都大学 饗庭教授】大学生などでも、ニュータウンで育った世代はニュータウンを好むので、うまく捕まえられると良い。また、40・50 歳代は介護できる環境を求めるので、そのような世代にアピールできれば戻ってきてもらえる可能性もある。

⇒ 【対応】個別施策として、検討する。

関連：方針（素案） P30 方針⑧、P31⑬

- ✓ 【中央大学 和田教授】何年後にどこまで達成させるかなどの目標も明確にすべき。

⇒ 【対応】個別施策を記載した方針を策定し、施策に取り組む。施策に取り組みながら、その時代の地域に合わせ取り組みを行っていく。

- ✓ 【中央大学 和田教授】公共施設とインフラに関する方針は、別々になっているが重複感がある。

《⇒方針（素案） P29 方針⑥に集約》

➤ 方針について

- ✓ 【首都大学 饗庭教授】人口バランスが良くなることのメリットを考えるべきである。例えば、近居が進むことで福祉に対する社会的コストが低くなることが考えられる。高齢者、若者世代、子育て世代への対応を個別に考えるのではなく、意味のある繋がりを見出せばよい。近居の実現は、目指すべきゴールの一つだと思う。

⇒ 【対応】近居を促進する取り組みは、個別施策の一つになると考えている。

《⇒方針（素案） P30 方針⑧》

- ✓ 【UR 都市機構 神崎部長】ソフト面での方針について、内容が重複するものがあるように感じる。

⇒ 【対応】修正する。
《⇒方針（素案） P30 方針⑧として記載》
- ✓ 【UR 都市機構 神崎部長】目指すまちの姿 2 に「みどり豊かなまち」とあるが、方針には、みどりのことが書かれている部分が少ないように感じる。

⇒ 【対応】他の方針部分でみどりが豊かと記載することは難しいが、記載について検討する。
《⇒方針（素案） P29 方針⑥》
- ✓ 【JKK 本田部長】団地内商店街の利活用については JKK にも関連するが、方針が変わる可能性はあるのか。

⇒ 【対応】具体的な活用主体や活用方法については、今後色々な団体と接触しつつ検討を進めていきたい。
[関連：方針（素案） P30 方針⑦]
- ✓ 【東京都 宮城部長】東京都では、イノベーションという言葉を使っているが、新たなビジネスの創出は重要なこと。

[関連：方針（素案） P29 方針⑩]
- 交通計画について

 - ✓ 【首都大学 饗庭教授】バスの路線、本数などを図示できれば課題が明確になり、議論しやすくなるのではないか。

⇒ 【対応】記載を検討する。
《⇒方針（素案） P11 バスに関する状況記載》
 - ✓ 【首都大学 饗庭教授】バス事業者との連携を進めるべきである。

⇒ 【対応】交通企画課と情報共有を図りながら、バス事業者とも連携していきたい。
[関連：方針（素案） P29 方針⑤]
 - ✓ 【東京都 宮城部長】ニュータウン通りや南多摩尾根幹線など主要幹線の整備、リニアの完成などの影響も考慮すべきではないか。
 - ✓ 【明星大学 西浦教授】リニアの話も入れ込められればよい。
[関連：方針（素案） P19、P30 方針⑬]
 - ✓ 【東京都 宮城部長】ビジネス創出は重要な課題である。

⇒ 【対応】職住近接や元気な高齢者の活躍できる場を作ることは市にとっても地域にとっても重要と捉えている。新たなビジネス展開の実現に向けて取り組んでいきたい。
[関連：方針（素案） P30 方針⑬]

➤ 個別施策について

- ✓ 【明星大学 西浦教授】具体的な個別施策の記載について検討すると、まちづくり方針に立ち返る必要も出る。個別施策の内容については早めに議論を進めるべき。
- ⇒ 【対応】提示できるものを整理して次回懇談会で提示する。
《⇒まちづくり方針に関連する現行施策等を整理した資料と、取り組みが必要なまちの課題を整理した資料を作成する》

● まちづくり方針策定に係るワークショップの開催について

➤ ワークショップの成果について

- ✓ 【明星大学 西浦教授】ワークショップの結果は、個別施策の記載に影響するか。
- ⇒ 【対応】ワークショップの結果を施策の構築に反映したいと考えている。

- ✓ 【中央大学 和田教授】ワークショップの成果に関する発表会の開催や、シンポジウム等での発表・提案の公開は考えているか。
- ⇒ 【対応】結果の発表等はワークショップ内で行う。また、未定だが広い範囲でのまちづくり方針なので、来年度以降、パブリックコメントや方針策定後の周知の方法をどのように行うか検討をしている。